

寒さの中にも、春の訪れを感じられる佳き日となりました。私たち卒業生115名は今日、純心女子高等学校を卒業します。3年前の入学式では、純心中学校から進学した私も、期待や不安で胸がいっぱいだったことを思い出します。純心女子高等学校で過ごした3年間はあっという間に過ぎていきました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、入学してすぐに学校が休校となり、友達と過ごす時間を奪われました。学校で学習することができなくなり、2年生のときには、リモート授業などを通して、自分で学習することがより大切になりました。急な変化に戸惑いながらも、休校になったことで、教科書や資料集、問題集を活用して自分で疑問を解決するという、自分に適した学習の仕方を見つけることができ、勉強することの楽しさを感じられるようになりました。中学校の時は、部活動が優先で勉強は二の次だった私でしたが、このことがきっかけで、勉強にも力を入れられるようになりました。学校が再開してからも、あらゆる学校行事が中止・変更・縮小されるなど、思うような生活を送ることができない日々が続き、1・2年生の時には楽しみにしていた体育大会も中止になりました。しかし、3年生では、高校生活最初で最後の体育大会を行うことができ、私は、体育大会実行委員長を務めました。司会をするなど、それまでは苦手だった、人前に立つという経験を通して、責任感や対応力を身につけることができました。こうして卒業生を代表し、答辞を述べるという機会をいただいたことにも心から感謝しています。

私は、部活動ではバスケットボール部に所属し、キャプテンを務めました。キャプテンとはチームを引っ張るだけではなく、仲間の背中を押す存在でもあるということ学びました。優勝という高い目標を持って、チームメイトと意見を出し合い、お互いを高め合いながら毎日練習に励みました。コロナの影響で九州大会が中止になったり、もう一步で優勝できた試合で優勝を逃したりするなど、たくさんの悔しい思いもしましたが、その中でも、諦めずに努力を続け、その後私は国体成年女子の選手に選んでいただき、長崎県を代表してプレーすることができました。理解し合い、ともに頑張ってきた仲間がいたからこそ、戦い抜くことができた部活動の日々は、私にとってかけがえのない大切な宝物です。顧問の先生にはプレー面だけではなく、気が利く人になることなど、人として大切なこともたくさん教えていただきました。先頭に立って手本となる機会をいただいたことで、要点を的確に伝えることの大切さも学びました。

学習面では、限られた時間で効率よく勉強することを心がけ、休み時間も有効に活用するようにしました。高校の先生方だけではなく、純心中学校でお世話になった先生にも時間を作っていただき、理解するまで熱心に教えていただいたおかげで、進路のための学習を頑張ることもできました。この3年間で学んだこと、教えていただいたことを生かして、大学でも自分の夢に向かって努力し続けます。

そして18年間いつもそばにいて、部活動でうまくいかなかったり、落ち込んだりしたときには、話を聞いてアドバイスを下さり、試合のときには必ず応援に来て、常に一緒に考え、支えて下さった両親、家族には言葉にできないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。どんなに辛いことがあっても乗り越えることができたのは、両親、家族のおかげです。本当にありがとうございました。

また、成人年齢が今年から18歳になりました。成人となった私たちには、選挙で投票する権利とともに、社会の問題にも目を向け、それに対する自分自身の考えを持つこと、正しいこととそうではないことを判断する力が必要とされています。周りの人々と支え合い、感謝する気持ちや相手を思いやる気持ちを大切にして、社会の中で自分の言動にも責任を持って参ります。

最後になりましたが、本日は私たち卒業生のために心のこもった卒業式を開催していただき、ありがとうございました。私たちは純心女子高等学校の卒業生であることを誇りに思い、それぞれの夢に向かって歩いて参ります。今までお世話になった全ての方に心から感謝するとともに、純心女子高等学校のさらなる発展をお祈り申し上げます。答辞とさせていただきます。

令和5年3月1日
卒業生代表